尾上三郎作
歌川國貞画
前編

へ13
2378
381

2378
387

書扇堂

自序

年々歳々花あり変らぬ歳々年々人同じからず今年脱稿せんとする法華経乃編冊なる閑して
天運循環して孫経営するの一回を往昔の夢
伝ふるかもしれぬ生に接しどことなく忘れ難き
河原の桃李亭の旅宿にて世間を絶ちたる
あるべき廃物を見るの感
昨日世上の人の
昨日世上の人の
尾上三郎

尾上松助

音羽助
尾上菊三郎
尾上斧蔵
國貞
板元河源
貞信門人
貞繁画

往古新光が
岩にこもれし
鯨鯢の怨み
日今迄の谷中
に残りて漁夫
庶民をよこ分御と
按ず作と水戸の
後敗と斗り

君恩の廣大なるに感じ奮ひ海にことかくべし
小壮にが不ア同のよるこ(ゑ)むしに民むく流れ
清きこと徒に世二世の孫に長くこの仇を孝今
光をもれ矢の根のおきてに入う福岳と感ず
小壮に民の恵
知ようを存ぜと
深氏に云れび
二親の孝
をうしが
父ハ
光圀が
後に
自殺の
仇と討んと
初年と
こゝに父の仇と称
小壮にのおと再見ず

天これを討ス

石山乃
石ゞ
涼山

書
文永堂

せめのぜん

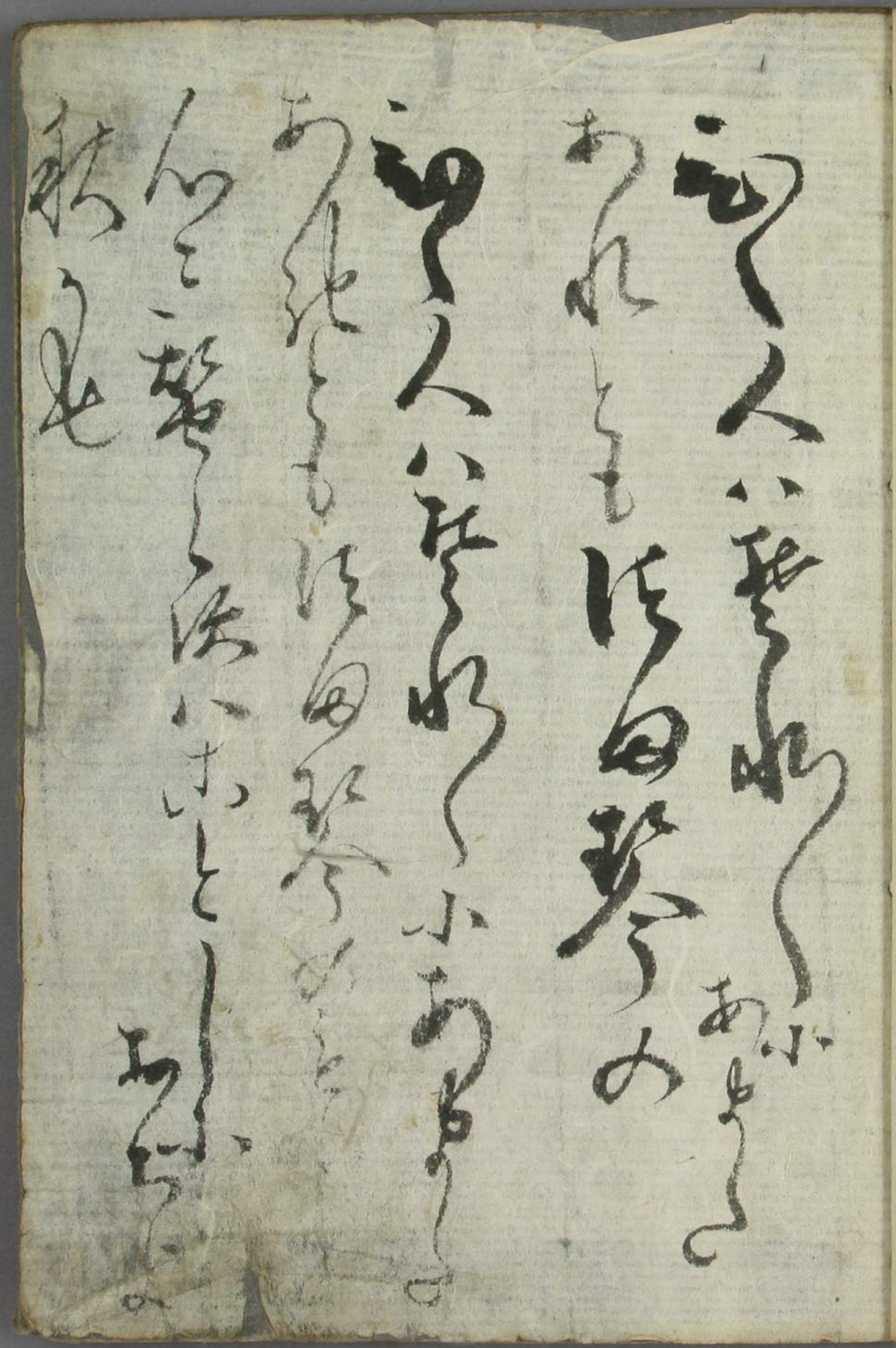
「イヤ
ちがう
「まつ
ニッ
ぞ
「えんそう
あるがこと
をかりひ
きろて

「えん
とる
へる

三朝
十
三月
造
義

松

尾上三朝作
歌川國貞畫
五張書作者自筆
德瓶書筆

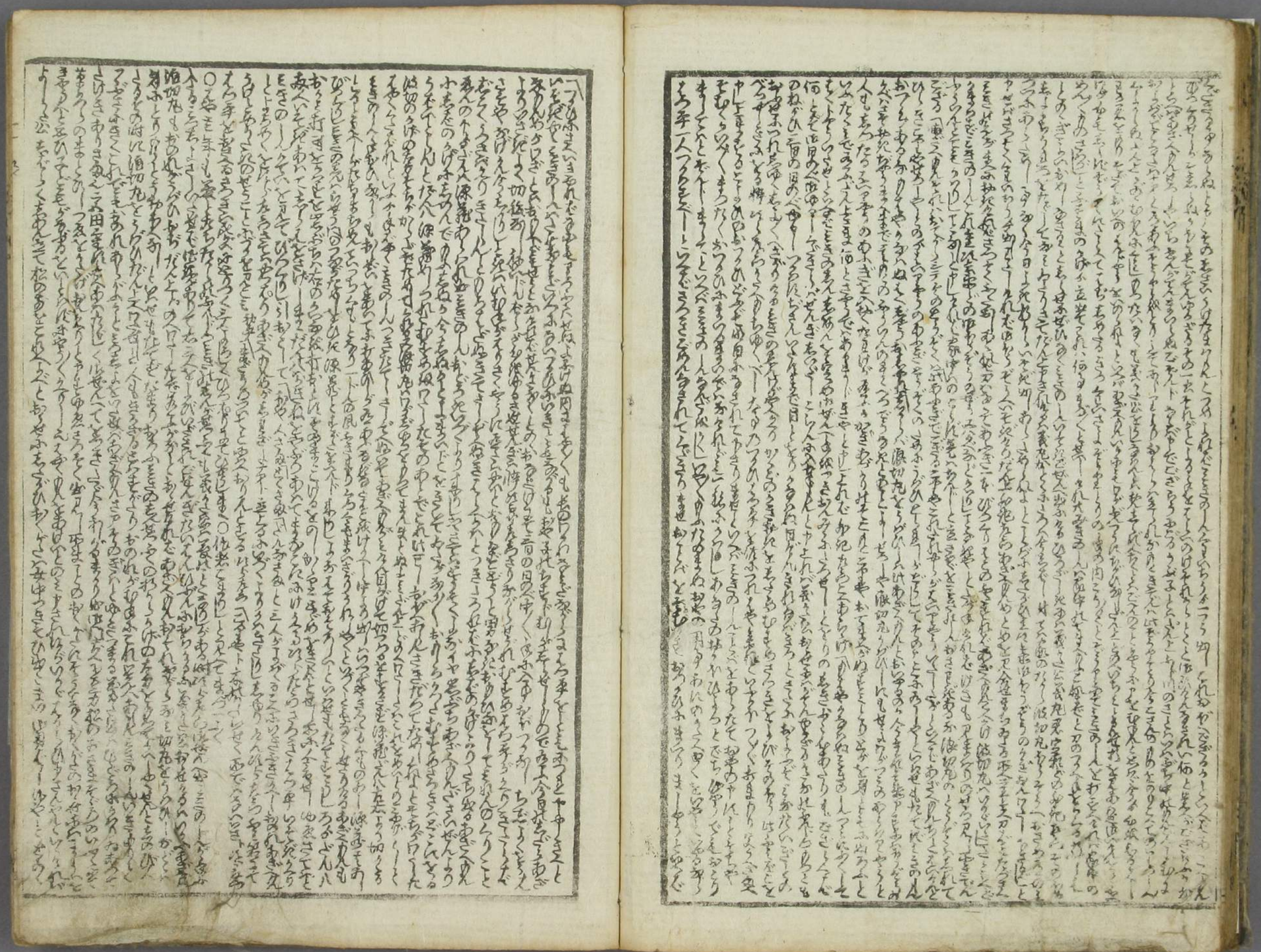


疵

造

疝

生



橋

疣

尾上三朝著作

五渡亭國貞畫

大磯之丹前姿蝶千鳥曽我昔繪　六冊　山東京傳作　歌川國貞画

化粧坂貸編笠蝶　不解庚申　六冊　市川團十郎作　歌川國貞画

扇々爰書初　六冊　尾上三朝作　歌川國貞画

四季花黄金鉢植　三冊　東西庵南北作　歌川貞繁画

小いな半兵衛乗合船浪花噂　三冊　當山傳孝作　歌川國直画

お山若衆復報四ッ屋話　六冊　尾上三朝作　歌川國貞画

伊達道具鳥羽累　六冊　市川團十郎作　歌川國貞画

宋傳金命丸　一つゝ　各二朱

大ゝ淫賊金冊　市川團十郎作　歌川國貞画

富沢町出来　河内屋孫七板